

【書式例 5-3】

令和３年度 指定管理者点検結果

施 設 名	玉野市障害者地域活動支援センター「こころの里」
所 在 地	玉野市宇野１丁目８番８号
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野１丁目８番８号
指 定 期 間	平成３１年４月１日 ～ 令和６年３月３１日（５年間）
担 当 部 課	健康福祉部 福祉政策課 電 話 ０８６３－３２－５５５６ E-mail fukushi@city.tamano.lg.jp

評 価 内 容 の 総 括	総 合 評 価
施設管理、運営等の実施状況等、全体的には概ね良好な指定管理が行われている。 令和３年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、実施できていない事業もあった。 * 行数は適宜調節してください。	A

■「総合評価」の評価基準

- S（優 良） 次の３項目の評価結果が全てA以上であり、かつSが２つ以上である。
- A（良 好） 次の３項目の評価結果が全てA以上である。
- B（課題含） 次の３項目の評価結果にBが含まれている。
- C（要改善） 次の３項目の評価結果にCが含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援が行われた。 【法令等の遵守】 法令等を遵守し、適切な施設運営が実施された。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 年間平均利用者数は、平成２８年度以降、年々増加している。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の８割が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、また、電気料金などの値上がりにより、これ以上のコスト削減は見込めない。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
日常の相談援助業務及び地域交流等イベント等を継続し、サービスの維持向上に取り組んでいる。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応件数増加による、計画相談給付費収益増、経費削減等により、経営努力を行っているが、人件費のウエイトが高くなっているが、健全な経営ができています。	A

■「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。

I 業務の実施状況に関する事項

1 管理体制の状況

(1) 指定管理業務の実施体制図（外部委託先を含む）

別紙「組織体制図」のとおり

(2) 人員配置状況

施設長 1名（相談支援専門員 兼務）

精神保健福祉士 4名（常勤専従2名、常勤 相談支援専門員 兼務1名、非常勤専従1名）

支援員（非常勤専従）1名

※常勤換算3.2人

2 施設・設備の維持管理業務の実施状況

・建物・設備の保守管理業務

建物の老朽化が進んでおり、随時所管課と協議しながら補修等を依頼している。今年度は建物の修繕箇所は無かったが、公用車両に修繕を要した。

消防設備・電気設備の保守点検は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所、玉野市地域包括支援センターと合同）。

・清掃業務

経費節減の観点から、通常の清掃は職員にて行っている。

屋外の植栽の手入れなどは年2回、利用者有志・利用者家族・支援ボランティアの協力を得ながら行っている。

年1回程度外部業者に委託し、床のワックスがけ等を行っている。

・警備業務

警備・保守管理は外部に委託して行っている（岡山県備前県民局建設事務所・宇野港管理事務所、玉野市地域包括支援センターと合同）。

・駐車場管理業務

岡山県備前県民局とも協議の上、利用者用駐車スペースを4台分確保している。

公用車及び職員通勤車両は行政財産使用許可を得て敷地内の駐車場を借用している。

3 利用等の許可の状況

原則として玉野市在住の精神科、心療内科等専門医に定期通院する方を利用対象とし、利用契約時に主治医より「情報提供書」を得ている。

利用者状況は、別表「令和3年度 利用契約者状況」参照のこと。

II 施設の利用状況に関する事項

1 施設・設備の利用状況

・利用許可の総件数、各施設・設備ごとの利用許可（不許可）件数

・利用者名、利用日時、利用目的、参加者数 等

別表「令和3年度 利用契約者状況」のとおり。

Ⅲ 自主企画事業の実施に関する事項（協定書に追加した事項等）

1 イベント名、内容、参加者数、収支状況 等

別表「令和3年度 利用契約者状況」および「地域交流活動推進事業実施報告書」のとおり。

Ⅳ 料金収入の実績及び管理経費等の収支状況等

1 利用料金の収入及び減免の状況

（１）利用料金の収入総額、各施設、設備ごとの収入額 等 該当なし。

（２）減免の総額、各施設・設備ごとの内訳、減免理由 等 該当なし。

2 管理に係る収支の状況

（必要に応じ詳細な収支報告書を作成すること）

（１）収入

項 目	金 額	備 考（内訳など）
利 用 料 収 入	0	
指定管理料収入	17,000,000	
そ の 他 収 入	6,126,226	計画相談給付費、障害支援区分認定調査委託料、他
収 入 合 計	23,126,226	

（２）支出

項 目	金 額	備 考（内訳など）
人 件 費	17,686,977	従業員給与、法定福利費及び福利厚生費
光 熱 水 費	409,694	
委 託 料	266,457	保安委託料、電気設備・消防設備保守委託料、他
車 両 費	429,640	公用車定期点検費用、自動車保険、車両燃料費
修 繕 料	521,508	HI キッキングヒーター購入（交換）設置費、パソコンアップグレード費用、他
保 険 料	118,644	しせつの損害保険
租 税 公 課 （事業所税を除く）	46,660	印紙代、登記事項証明書発行手数料、他
そ の 他	1,450,193	外部講師等報償費、印刷製本費、通信費、備品消耗品費、支払手数料、新聞図書費、他
事業所税相当額	0	
消費税相当額	0	
支出合計	20,929,773	

V 自己点検結果

自己点検の方法、結果、改善方法 等

随時各職員により観察を行い、不具合が生じた際などは所管課と協議の上、軽微なものについては職員にて修繕等を行っている。業者に修理を依頼する場合や支援ボランティアの協力を得ることもある。

今年度は、公用車の車検の他、ブレーキ等の修繕を要した。

VI 経費節減・サービス向上に関する取組み

継続的に各職員の省エネ意識を高め合い、節電・節水に努めるとともに、利用者の皆さんにも省エネに対する意識をもって頂けるよう、各職員で働きかけを継続している。

一方、感染症対策のため換気をしながらの冷暖房を行わざるを得ない状況にあり、また、燃料費・水道光熱費・消耗品価格の上昇のため、経費削減のための取り組みには壁も多い。

今年度も新型コロナウイルス感染拡大のため、従来からの行事・地域交流普及啓発事業を継続することが困難となった。「緊急事態宣言」発出時及び「まん延防止等重点措置」対象期間にかけては、一定数以上の参加が見込まれる行事は休止とした。再開後も、感染拡大防止の観点から、換気を行う、小グループに分かれて密集を避ける、食事中的会話は避ける等、リスクを最小限とする対策を講じて行った。

幸いにして、施設において集団感染が発生することは無く、利用者・職員ともに感染者は確認されなかった。

行事の休止や規模の縮小を余儀なくされ、通所利用される方の滞在時間は減少する一方、通所利用件数自体は微減にとどまり、電話相談は昨年度以上に高い件数で推移した。

相談支援事業においては、年々高い件数で推移しているが、当センターで対応できる上限にほぼ達している状況に変化はなく、今後新規の利用者をどこまで受け入れるかは引き続き不透明である。

家族支援においても、事業としては、多くの家族が高齢となる中、感染症拡大防止の観点から年1回の学習交流会のみにとどまった。

利用者の当事者活動についても、感染症の影響は大きく、引き続き大人数が集まる親睦や交流の場は自粛せざるを得ない状況である。

VII その他

昨年度に引き続き感染症の影響を大きく受けた一年であったが、新規利用者は23名で昨年度と同数であった。一方、新規契約者の内訳をみると、「地域活動支援センターI型」のみの契約者は昨年度3名に対し今年度は4名で(相談支援事業契約者昨年度16名・両事業同時契約2名、今年度19名・両事業同時契約0名)、相談支援・ケアマネジメントのニーズが表面化してきて

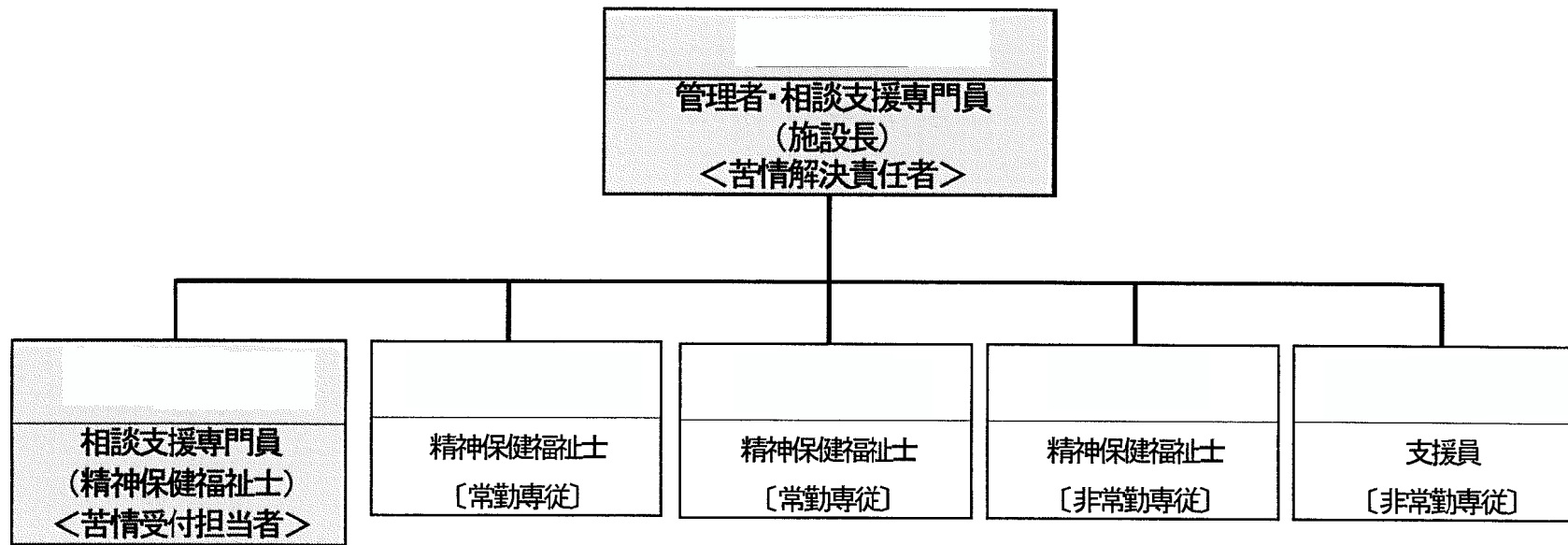
いるが、数は少ないとは言え、「安心して過ごせる居場所」、「憩える場」という支援センターの基礎的な部分のニーズについて、今年度も再確認することができた。

それぞれの利用者にとっては、市中の感染状況をみながら「活動の場」としての利用は敬遠されつつあると想像されるが、一方、センターの「居場所」という側面を重視する利用者にとっては、いわゆる「ソーシャルディスタンス」を保ちながら程よい距離感で交流し、あまり干渉されずに静かに過ごす場として活用され、他の日中活動の場とは差別化がなされているとも推測された。引き続き「活動の場」と「居場所」というそれぞれの機能をいかに両立していくかが課題と感じられる。

感染症の影響により、長期的な視点をもって諸課題に取り組むことが困難であるが、利用者一人一人の個別性の高いニーズに対応可能な体制を維持し、利用者・家族・地域の関連機関・市民から支持される、時代に合った支援センター像を模索していきたい。

地域活動支援センター こころの里

組織体制図 （地域活動支援センターⅠ型・指定特定／一般相談支援事業所）



※ 網掛け部分を指定相談支援事業所職員とし、()内の職種を兼務する。

令和3年度 利用契約者状況

(令和4年3月31日 現在)

表1. 開所日数・利用契約者・相談事業利用状況

開所日数	契約利用者数	新規契約		契約解除者		利用者数(実人数)			一人平均(日)	利用者数(のべ)			一日平均(人)	相談状況										面接相談	電話相談	同行・訪問	サロン	夜間電話件数	夜間電話件数			家族	見学・来訪者
		男	女	男	女	総数	男	女		総数	男	女		総数	人間関係	生活関連	仕事関連	病気・漢	施設利用	福祉制度等	その他	18:00～	19:00～						20:00～				
4月	21	345	3	3	0	0	108	67	41	5.5	592	387	205	28.2	614	7	348	4	5	151	100	1	55	507	52	39	1	1	0	0	14	24	
5月	20	345	0	0	0	0	114	69	45	5.2	593	360	233	29.7	655	3	372	10	4	133	133	0	58	545	52	30	0	0	0	0	12	17	
6月	21	347	2	1	1	0	114	69	45	4.9	554	337	217	26.4	527	9	210	19	10	142	136	1	60	405	62	30	2	0	1	1	8	21	
7月	21	346	0	0	0	0	106	61	45	5.4	569	362	207	27.1	586	10	284	18	24	131	118	1	77	447	62	31	0	0	0	0	5	21	
8月	21	350	2	2	0	0	107	62	45	5.7	608	386	222	29.0	592	10	304	18	20	118	121	1	70	464	58	49	1	0	0	1	9	22	
9月	19	350	0	1	0	1	109	66	43	5.1	555	366	189	29.2	572	11	274	24	13	129	121	0	79	436	57	38	0	0	0	0	6	31	
10月	22	351	1	0	0	0	114	69	45	5.8	656	420	236	29.8	672	22	313	20	8	170	128	5	99	510	63	26	0	0	0	0	20	82	
11月	21	348	0	0	2	1	102	64	38	5.9	606	403	203	28.9	720	14	391	25	8	168	113	1	106	565	49	35	0	0	0	0	15	27	
12月	20	352	2	2	0	0	106	66	40	5.7	606	396	210	30.3	681	4	385	22	15	146	100	9	89	545	47	41	0	0	0	0	11	48	
1月	19	352	0	0	0	0	104	60	44	5.4	565	360	205	29.7	707	10	374	38	22	144	118	1	110	553	44	58	0	0	0	0	9	39	
2月	19	351	0	1	1	1	100	56	44	5.2	523	320	203	27.5	661	18	395	24	14	110	99	0	98	518	45	47	0	0	0	0	5	12	
3月	21	354	2	1	0	0	111	66	45	5.5	608	367	241	29.0	731	9	394	35	11	166	115	1	102	575	54	29	0	0	0	0	10	23	
合計	245	354	12	11	4	4	-	-	-	-	7,035	4,464	2,571	28.7	7,718	127	4,049	257	154	1,708	1,402	21	1,003	6,070	645	453	4	1	1	2	124	367	
平均	20.4	-	-	-	-	-	107.9	64.6	43.3	5.4	586.3	372.0	214.3	28.7	643.2	10.6	337.4	21.4	12.8	142.3	116.8	1.8	83.6	505.8	53.8	37.8	0.3	0.1	0.1	0.2	10.3	30.6	

表2-1. 生活支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
料理教室	4	-	-	-	-	-	9	-	7	-	5	-	25	8.3
手芸教室	3	-	-	-	2	-	-	-	2	-	3	-	10	2.5
カレーの日	9	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	22	39	13.0
餅の日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0
絵手紙講座	2	3	2	2	2	-	0	2	-	2	-	-	16	1.8
スポーツの日(大倉倉庫)	0	2	0	-	1	5	5	5	5	5	-	1	29	2.9
ソフトバレー	4	-	-	-	-	-	1	2	5	5	3	-	20	3.3
のど自慢会	5	-	-	2	-	-	6	6	-	5	-	2	26	4.3
シフォンケーキ作り	6	-	-	5	-	-	5	4	7	5	-	6	38	5.4
リフレッシュ教室	4	2	-	0	3	3	3	2	0	-	-	1	18	2.0
パソコン教室	1	2	3	3	2	2	2	2	4	3	1	1	26	2.2
ペーパークラフト倶楽部	1	1	1	1	1	1	1	2	-	0	0	0	10	0.8
ランチの日	-	-	-	16	-	-	-	15	-	10	-	-	41	13.7
ぜんざいの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	-	-	12	12.0
きなこもちの日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11	11	11.0
講演会聴聴会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2	2.0
合計	39	10	6	29	11	11	32	40	40	47	12	44	321	81.2

表3. 世帯構成(人)

	家族と同居	一人暮らし	その他	合計
男性	136	50	26	212
女性	119	24	10	153
合計	255	74	36	365
%	69.9	20.3	9.9	100.0

表4-1. 年代構成(人)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	合計
男性	0	14	31	60	44	46	13	3	0	211
女性	0	9	27	34	40	27	13	3	1	154
合計	0	23	58	94	84	73	26	6	1	365
%	0.0	6.3	15.9	25.8	23.0	20.0	7.1	1.6	0.3	###

表4-2. 利用者平均年齢(歳)

	平均年齢	前年度比
男性	50.52	+ 1.50
女性	51.10	+ 1.72
全体	50.76	+ 1.59

表2-2. 当事者活動参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
めばるの会	7	2	5	1	2	3	5	2	12	1	3	4	47	3.9
結茶結茶の会	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
合計	7	2	5	1	2	3	5	2	12	1	3	4	47	3.9

表2-3. ボランティアよりの支援状況(参加ボランティア数:延べ)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
継続ボランティア	4	2	1	4	3	-	4	4	3	2	-	-	27	3.0
カレーの日	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	4	7	2.3
料理教室	2	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	4	2.0
手芸教室	1	-	-	-	1	-	1	-	1	-	1	-	5	1.0
絵手紙講座	1	0	1	1	1	-	-	-	1	1	-	-	6	0.9
ソフトバレー	0	-	-	-	0	0	0	0	0	-	-	-	0	0.0
シフォンケーキ作り	3	-	-	3	-	-	-	-	2	-	-	-	8	2.7
リフレッシュ教室	1	1	-	0	1	-	0	1	0	-	0	-	4	0.5
ランチの日	-	-	-	3	-	-	-	5	-	6	-	-	14	4.7
その他	0	0	8	0	0	0	15	0	15	0	0	-	38	3.5
合計	13	3	10	11	6	0	20	10	26	9	1	4	113	9.4

※地域交流事業含む

表2-4. 家族支援事業参加状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
家族サロン	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0.0
家族の集い	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	5	5.0
合計	0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	5	0.4

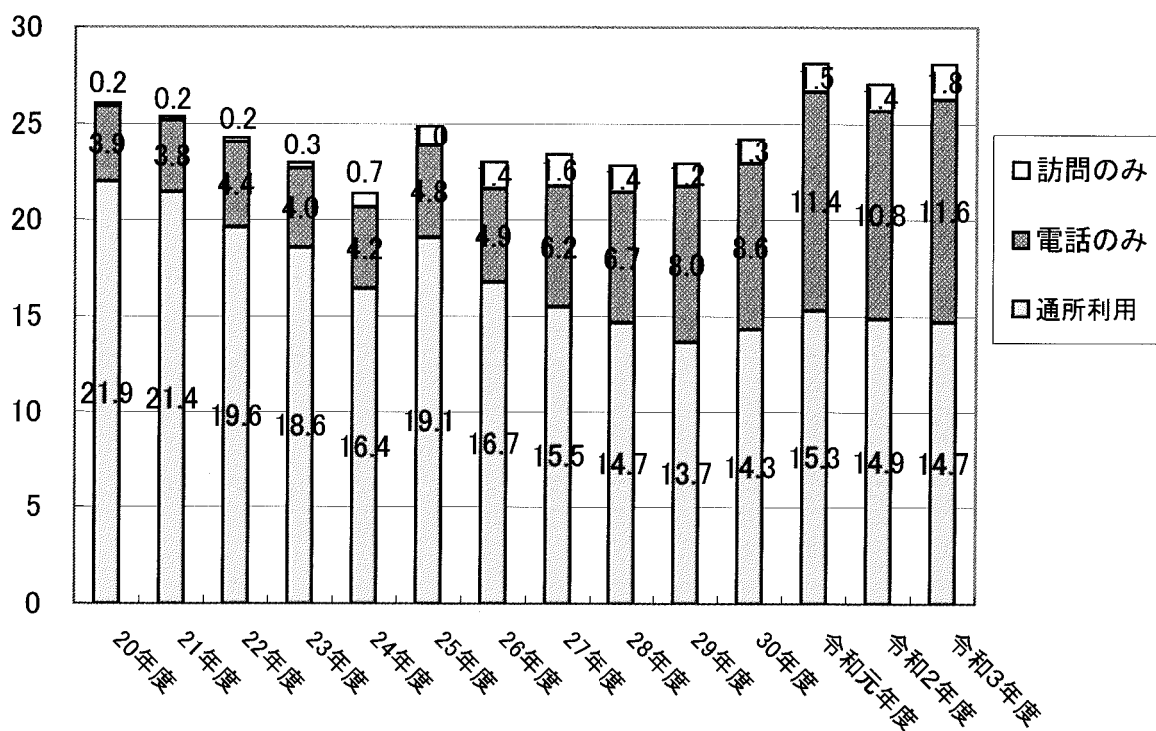
別表1 利用契約者状況 年次推移

(令和4年3月31日 現在)

※ 集計に未契約者は含まず

	年間平均利用者数			
	通所利用	電話のみ	訪問のみ	合計
20年度	21.9	3.9	0.2	26.1
21年度	21.4	3.8	0.2	25.4
22年度	19.6	4.4	0.2	24.3
23年度	18.6	4.0	0.3	22.9
24年度	16.4	4.2	0.7	21.4
25年度	19.1	4.8	1.0	24.8
26年度	16.7	4.9	1.4	22.9
27年度	15.5	6.2	1.6	23.3
28年度	14.7	6.7	1.4	22.8
29年度	13.7	8.0	1.2	22.9
30年度	14.3	8.6	1.3	24.2
令和元年度	15.3	11.4	1.5	28.1
令和2年度	14.9	10.8	1.4	27.1
令和3年度	14.7	11.6	1.8	28.1

年間平均利用者数年次推移



地域交流活動推進事業実施報告書

【 サロン・コンサート 】

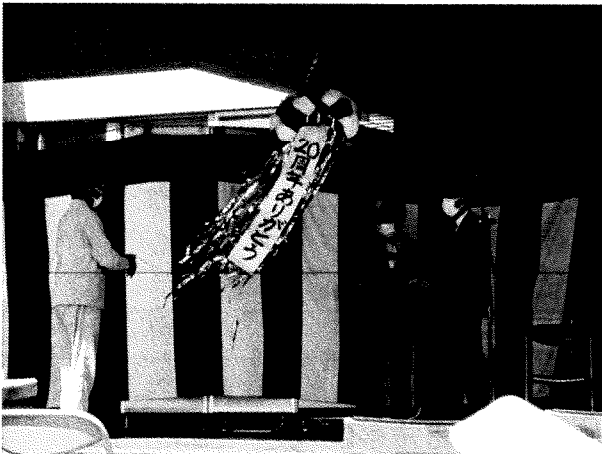
日 時	※ 新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から今年度は中止
場 所	
参加人数	
方 針	
内 容	

地域交流活動推進事業実施報告書

【 ころの里まつり 】

開催日時	令和 3 年 10 月 2 日（土曜日） 12 時 00 分 ～ 15 時 00 分
開催場所	駐車場
参加人数	利用者：35 名 未契約者：2 名 家族会：2 名 運営ボランティア：14 名（個人登録ボランティア、社協ボランティア） 出演ボランティア：12 名（玉野フォークダンスクラブ） その他：13 名 職員：6 名 ／合計：84 名
内 容	《 目 的 》 地域との交流と、ころの里の活動の認知を目的に、利用者・家族・各種ボランティア団体・地域住民の方と共に、毎年の恒例行事として祭りを開催している。 当日は参加者が、模擬店・カラオケ・ゲーム・フォークダンスなどを通じて交流し、お互いの理解を深め合う。当事者会による出店や利用者のステージ出演を募集し、利用者が積極的に行動し、達成感を味わえる場となることを期待する。 今年はころの里開設 20 周年にあたるため、冒頭に記念式を開催し、黒田市長にもご臨席をいただいた。 尚、例年は学生にステージ出演を呼び掛けて、若者に対し精神障害への理解や支援を啓発する機会としてきたが、今年も昨年に続き新型コロナウイルス感染症の感染防止のため学生のステージは中止した。 《 内 容 》 今年も昨年に倣い新型コロナウイルス感染症の感染防止の対策として、3 密を避け、消毒、マスク着用を徹底。規模を縮小し出演ボランティアの人数も少なくした。ころの里開設 20 周年ということで大勢の方がお祝いに来られたこともあり、参加者全体の人数は昨年より 20 人以上多く、好天にも恵まれ、開放的な屋外で、あたたかい雰囲気祭りとなった。 日頃から支援をいただいているボランティアの協力による各種模擬店（カレー・うどん・おでん・かき氷・ジュース・ネギ焼）は早々にすべて完売。地域の作業所からの応援出店もあり、来場者には食事や買い物を楽しんでいただいた。 ステージの催しは観客席と距離をとり、のど自慢（カラオケ）大会は各自マイクカバーを付け替えて行った。利用者有志のステージも復活し、20 周年に花を添えていただいた。密になりにくいゲームとして今年もビンゴゲームを採用。景品を用意し来場者全員参加で盛り上がった。 フォークダンスでは、玉野フォークダンスクラブの方が、手を繋がずに楽しめる踊りを選んでくださり、華やかなフィナーレを飾ることができた。 《 反省及び課題など 》 ・ 20 周年記念式には黒田市長よりご挨拶をいただいた。元職員も参加し、利用者さんと懐かしいひと時を過ごしていただけた。 ・ 今年も安全に開催することができて良かった。 ・ 前日準備から当日の片付けまで多くのボランティアに協力いただいた。

地域交流活動事業実施報告 【こころの里まつり】



こころの里開設20周年記念式



利用者によるカラオケ



利用者有志の漫談



全員参加で BINGO 大会



フォークダンス
(玉野フォークダンスクラブの皆さんと)

地域交流活動推進事業実施報告書

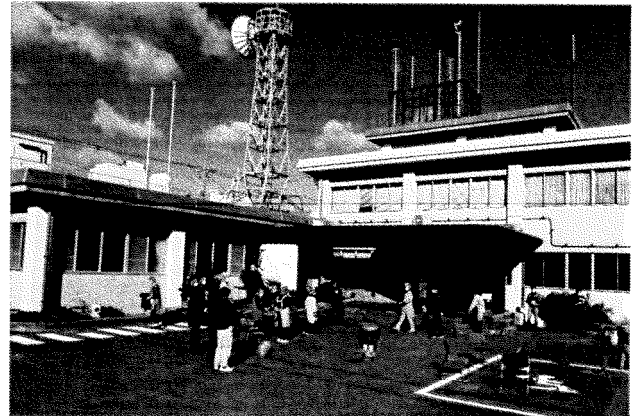
日 時	令和3年12月18日（土曜日）10時～12時30分
場 所	こころの里 サロン・調理場 他
参加人数	利用会員：13名 ボランティア：15名 さくらんぼの会：1名 福祉政策課：2名 職員：6名 /合計37名
内 容	【お餅つき交流会】 《 目 的 》 季節の行事である餅つきを通して、精神障害者（利用会員）と地域ボランティアがふれあい、協力しあうことにより、お互いの理解を深める。 《 内 容 》 男性利用者・男性ボランティアを中心に協力して、6白（鏡餅・持ち帰り用丸餅・お手入れ用丸餅）の餅をつき、女性利用者・女性ボランティアは建物共用の玄関にてお餅作りと昼食の準備を行う。参加者全員で、ついたお餅と豚汁を昼食としていただきながら交流を図る。 利用者より 300 円の参加費を徴収し、年始用のお餅を持ち帰っていただく。 《 反省及び課題など 》 ・ノロウイルス防止に加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加者全員に検温を実施し、手洗いと消毒、手袋・マスクの着用を徹底。餅に直接触れる人（お餅作り担当）はキャップも着用。お餅作りと昼食時には人が密集しないように机や椅子の配置を変えることで、感染リスクを抑えて行うことができた。 ・参加人数の総数は昨年と同じであるが、こころの里利用者・またその家族の数は昨年より減少。感染症の状況も一時的に落ち着き、年の瀬の恒例行事として餅つき交流会が開催できたことは良かったと思われる。参加された方も感染症対策のため様々な制約の中ではあるが、各々楽しまれている様子であった。 ・6白すべて滞りなくつき終えることができ、餅も全てきれいな仕上がりとなった。

地域交流活動事業実施報告

【お餅つき交流会】



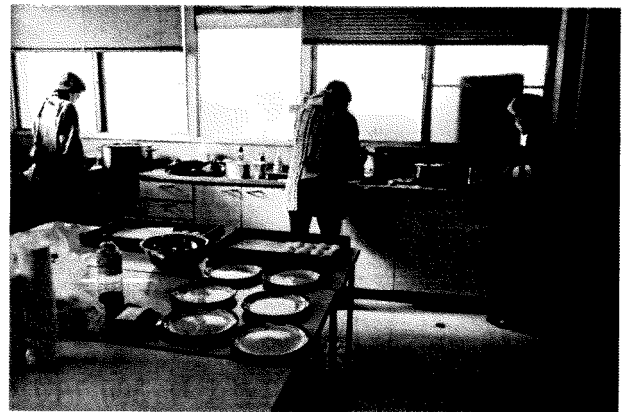
もちつき準備



開会式



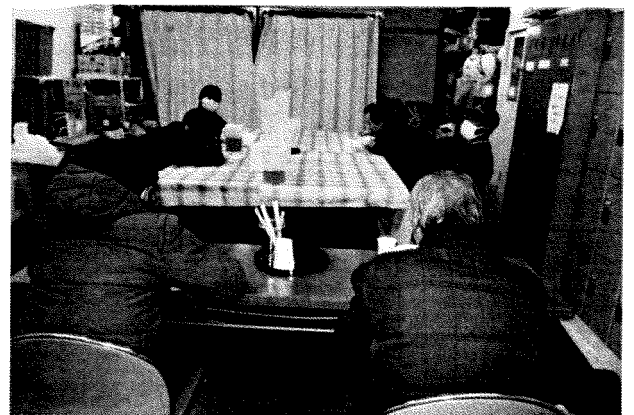
餅つき



お手入れ餅



餅作り



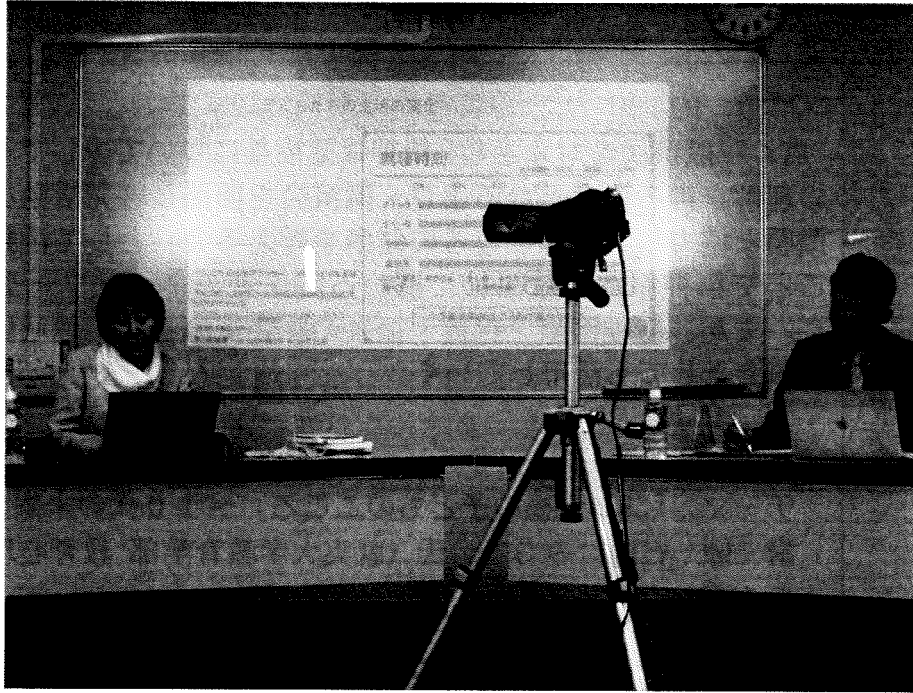
食事風景

地域交流活動推進事業実施報告書
【玉野こころの講演会（ネット配信）】

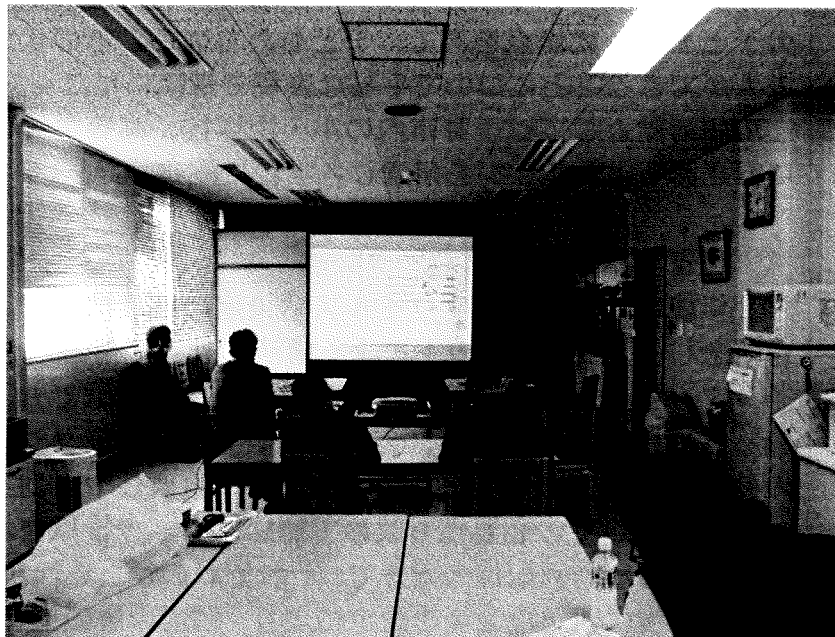
開 催 日 時	令和3年3月5日（土）13時00分 ～ ネット配信開始 （1ヵ月限定）
開 催 場 所	※インターネットによる配信のみ
参 加 人 数	配信期間1ヵ月間の総再生回数：133回 総視聴時間：25時間
内 容	《 目 的 》 広く一般市民を対象とし、精神保健福祉について少しでも多くの方々の理解を得る機会となるよう、講演会を開催し啓発活動を行う。関係機関と協力し「玉野こころの健康を考える会」として活動を展開することで精神保健医療福祉に携わる関係者のネットワークを築いていく。また、精神医療・保健・福祉の社会資源を広く地域住民にPRする機会としても活用していく。 《 内 容 》 テーマ：「コロナ禍の子どものこころ」～10代の未来のために～ 講 師：石原 みちる 氏（就実大学教育学部 教育心理学科 教授） 昨年に続き新型コロナウイルス感染症感染拡大のため、有観客の講演会は断念し、インターネットによる動画配信での実施となった。 例年玉野市の会場に200人規模の来場者があり、同時開催の＜こころの健康展＞や合唱のコーナーなどの付加価値もあったが、一方でネット配信では今まで足を運べなかった方、知らなかった方にも届けられるというメリットがある。 今回もコロナ禍で今起きていることがテーマとなった。特に10代の子どもたちに焦点をあて、子どもたちのこころの状態や、まわりの大人ができることについて平易な表現で講演いただく。 広報活動としては玉野市内の小・中学校、高等学校の児童生徒全員に行き渡るようチラシを用意し各学校に配布した。 《 反省及び課題など 》 2年続いて新型コロナウイルス感染症の感染拡大により“講演会”を断念し、インターネットによる講演の動画配信という形になった。インターネットでの視聴は、期間中いつでも、誰でも、何度でもみられるという利点があるが、会場での空気感、リアクション、終了直後の熱量で書いてもらうアンケートなどの重要性や、地域の方々との交流の機会としての必要性も改めて痛感する。今後は会場での講演と随時視聴できる動画配信の両方で、それぞれの良さを活かしていきたい。また来年度は新たな会場の設定により、幅広い層の集客を考えている。

地域交流活動事業実施報告

【こころの講演会】



収録風景



視聴会（こころの里）

【書式例 5-4】

令和3年度 指定管理者自己点検結果

点 検 日	令和4年 5月 7日 (4回目)
施 設 名	地域活動支援センター こころの里
所 在 地	玉野市宇野一丁目8-8
指 定 管 理 者	名 称 特定非営利活動法人 円い空 代表者 理事長 青井 一展 住 所 玉野市宇野一丁目8-8
指 定 期 間	平成31年 4月 1日 ~ 令和6年 3月31日 (5年間)
担 当	地域活動支援センター こころの里 電 話 0863-33-5151 E-mail maruisora.5151@tulip.ocn.ne.jp

評 価 内 容 の 総 括	総 合 評 価
本施設のこれまでの実績を基盤として、利用者の個々のニーズへの対応に努め、きめ細やかな支援を強化していくことを主眼に事業を実施しており、指定管理、運営等の実施状況は良好であり、全体としても良好に指定管理を行っている。 一方、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和2年度に続き、令和3年度も実施できなかった事業もあった。 *行数は適宜調節してください。	A

■「総合評価」の評価基準

- S (優 良) 次の3項目の評価結果が全てA以上であり、かつSが2つ以上である。
- A (良 好) 次の3項目の評価結果が全てA以上である。
- B (課題含) 次の3項目の評価結果にBが含まれている。
- C (要改善) 次の3項目の評価結果にCが含まれている。

① 業 務 の 実 施 状 況	評 価 結 果
【適切な施設管理の履行】 障害者地域活動支援センターとして、利用者・利用者家族・支援ボランティア・地域の関係機関の意見を踏まえながら、精神障害のある利用者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう必要な支援を継続している。 【法令等の遵守】 障害者総合支援法や岡山県が定める条例、玉野市障害者地域活動支援センター条例等の法令等を遵守し、適切な施設運営が実施できている。 【安全性の確保】 セキュリティ・消防業務等の専門的な業務は、委託業者を用いながら適切に実施されている。 【財産の適切な管理】 維持管理は適切に実施されている。 【利用状況】 利用契約者は毎年増加。また、年間平均利用者数も持ち直し、高水準にある。 【コスト削減への方策】 コスト削減については、支出の８割以上が人件費関連の支出で、日頃からコスト削減の努力がされており、これ以上のコスト削減は見込めない。 * 行数は適宜調節してください。	A
② サ ー ビ ス 向 上 へ の 取 り 組 み	評 価 結 果
利用者に対し個別の日常の相談援助業務を継続するとともに、施設の認知度を上げるための地域交流等イベント等を継続するとともに、オンラインによる講演会の配信など、サービスの維持向上に取り組んでいる。 * 行数は適宜調節してください。	A
③ 団 体 の 経 営 状 態 （ 経 営 の 健 全 性 ）	評 価 結 果
相談支援事業対応件数増による計画相談給付費収益増等により、経営努力を行っており、黒字経営を継続している。 人材の確保及び設備の補修等もも考えなくてはならない状況に鑑み、財源について玉野市との協議も継続していく必要があるものと思われる。 * 行数は適宜調節してください。	A

■ 「評価結果」の評価基準

- S（優 良） 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。
- A（良 好） 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。
- B（課題含） 協定書等の基準を概ね遵守しているが、内容の一部に課題がある。
- C（要改善） 協定書等の基準が遵守されておらず、改善が必要な内容である。